

復興開発過程のカンボディアにおける女性の健康問題 (2) —インタビュー結果を
基にしたPost-conflict (紛争後) についての1考察

Women's Health Issues in Cambodia during Post-conflict Development Process (2) -- A Study
on the Period of Post-conflict Based on Interviews of Cambodian Women

喜多 悦子¹、宇野日出男²、宇井志緒利²、村田 朋子²、青山 温子²

1 日本赤十字九州国際看護大学 2 名古屋大学 大学院医学系研究科

冷戦構造終結後、それまで抑圧されていた局地的対立があらわになって地域紛争が増加した。国際社会の関心は、避難民への緊急人道援助主体から、復旧・復興を通じた紛争の終結・予防へと変化しつつある。現在では、人道援助機関・開発援助機関のいずれもpost-conflict期へ関与するようになっている。

カンボディアは、1992年国連カンボディア暫定機構の関与の下に国家再興に踏み出し、1993年に総選挙を行って新憲法制定、1999年にはASEAN加盟、着実に復興の道を歩んでいる稀有なpost-conflict国である。発表者は、復興・開発過程にあるカンボディアにおいて、女性の心身の健康に影響する医学的・社会的・経済的要因を分析しているが、本発表は、研究過程の一環として、post-conflictとはどのような時期を云うのかを考察した第一報である。

「Post-conflict」という用語は、人道援助機関・開発援助機関とも用いているが、国際的に認知された明確な定義はない。1990年代末、WHO/EHA (Emergency and Humanitarian Action) では、「post-conflictとは、純粹に救命的な緊急人道援助から復興を視野に入れた中長期計画に移行する時期で、対立者間に国際的に認知された和平合意が締結され実行されている時期」と考えていた。加えて、「(インフラなどが)紛争前の状態には戻っておらず、人々が紛争の影響から抜け出していない時期」という認識も持っていた。プノンペンの経済活動には紛争の影響を認め難いが、各地に地雷事故があり、カンボディアはなおpost-conflict期にあるといえる。

カンボディアの都市部・農村部で女性に対するインタビュー調査を実施した。対象者の中には、ポルポト時代を知らないと答えた30代女性も存在したものの、他のほぼ全員が過去の紛争によって何らかの負担を受けたと述べた。しかし、訴えの重篤さは、現在の生活安定度と並行している傾向がうかがえ、post-conflict期への関与には、過去の身体的精神的負担へのケアに加えて、より積極的な現状改善が重要と思われた。

紛争が遷延する開発途上国では、人材の喪失とともに、保健医療・教育など基礎的社会基盤さえも破壊されてしまう。そのため、post-conflict期に、緊急人道援助から長期開発へ移行するのは容易でなく、国土と地域社会の荒廃、貧困と低開発の持続が、新たな紛争につながる危険性が高い。今後、紛争の終結・予防への対応を含め、如何なるpost-conflict期への対応が効果的かを検討してゆく。